

つくと9（2026）に参加してみた

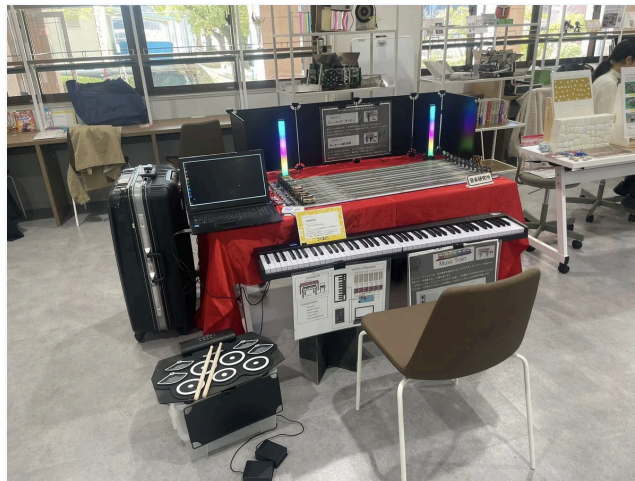


音楽研究所

2026年2月23日 12:59

...

九州産業大学（福岡市）で開催された「つくと9」に「ミュージック・トレイン」という作品を展示したときの記録です。



ミュージック・トレイン

「つくと」について

「つくと」はメイカーフェアやNT●●と同じような、個人が作成したものを展示するイベントです。NT●●は、NT京都やNT名古屋のようにNTのあとに開催場所をひっつけたものがイベント名になっています。「つくと」は「つくろう」を福岡の方言にしたもので、同系列のイベントには広島「つくるけえ」、大阪「つくろか」、名古屋「つくろがや」、函館「つくるっしょ」などがありま

す。

詳しくは知りませんが、NT●●も、「つくるか」「つくと」なども、何か全国組織があるわけではないようで、主催者さんや出展ルールもバラバラです。運営の人の話によると「つく●●」系のイベントでは、「つくと」が最初に開催されたイベントで、その後、運営関係者が引っ越しをするなどのきっかけで、各地に広まっていったようです。ここ最近では、「つくと」は2月と8月の年2回の開催で、会場は九州産業大学に固定しつつあるようです。市内中心部の科学館で開催された年もあるそうですが、大きなものを搬入できないのが難点ということでした。

運営の人は、大学の教員というわけではなく、色々なところから集まってきている有志のようです。スポンサーは積極的に募集せず、自分たちで無理なくできる規模でやっていきたいということでした。

ちなみに、同じ時期に開催されるイベントには、「NT加賀」や「NT広島」「メイカーズながおかまつり」があり、2026年の「つくと！」と「NT加賀」は同じ日に開催でした。



会場 受付付近

参加準備

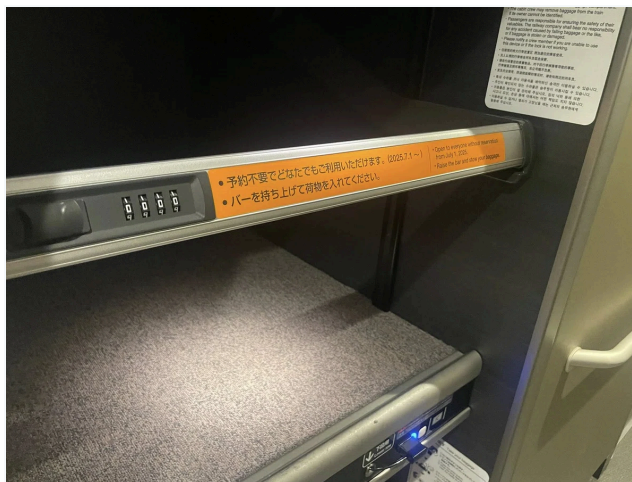
参加申込

参加の募集は「つくと」のホームページ上で行われます。facebookやxでも告知されます。12月末に募集が開始され、1次募集は1月中旬、2次募集は1月末までです。サイトのフォームから申し込む形で、メールで結果が通知されます。1次募集で申し込んで通知が1月の中旬でした。出展料は学生は無料、個人は3千円です。

懇親会は、参加人数が15名ほどに限定されていますが、申し込みはイベントの前日まで可能です。私は前日の夕方に申し込みましたが、私でちょうど15人の定員に達しました。参加費は4千円です。

移動の計画（車ではなく電車で）

では、当初は千円追加されていたと思うのですが、今は追加料金は無しで同じ値段です。あと、最後部座席ではなく、デッキにある専用の荷物スペースもありますが、こちらは有料です。ただ、前回乗った時は、こちらも無料で解放している所以大家で融通しあってご使用くださいというアナウンスが流れていました。最後部座席は、気兼ねなくリクライニングできますし、お勧めです。荷物の数も特に言われませんが、私はスーツケース2つ置いたこともあります。このあたりは、空きスペースがあるかどうかによろしいと思いますが。事情を知らない外国の方が予約なしに荷物を置くケースがあるようですが、この場合も車掌に言えばなんとかしてくれるはずですよ。



予約不要の荷物スペース

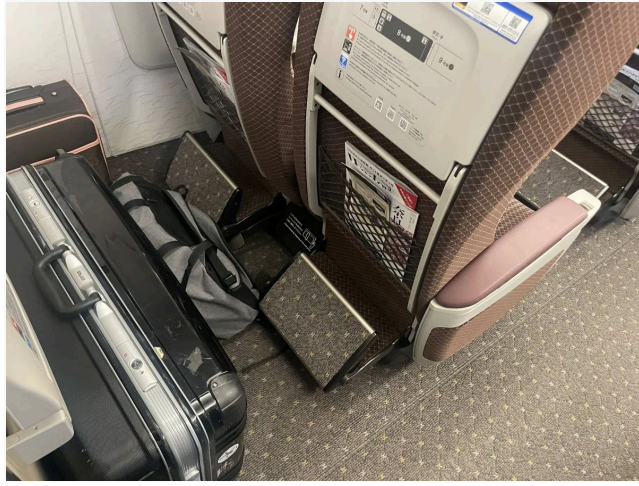
グリーン車を予約

イベントの3日前、最寄りの駅に京都・博多間の新幹線のチケットを買いにいきましたが、なんと、最後部座席のみならず、すべての座席が売り切れていました。しょうがなくグリーン車を予約しました。実は、インフルエンザの感染が拡大していて、場合によってはグリーン車だと考えていたので、ふんざりがついた感じですよ。以前も、新型コロナの警戒時期にグリーン車で京都・東京間を往復したことがあります。

帰りは時間が不確定なため、通常、予約しないのですが、不安になり、帰りの分も予約しました。こちらはグリーン車ではなく、通常の最後部座席ですよ。

新幹線、飛行機はいつも通路側を選びます。トイレにも行きやすいですし、横に感染症状がある人が座った時に対策しやすいですよ。

予約をしたときに気づいたのですが、京都から博多まで2時間40分ほどで、京都から東京まで行くのと30分程度しか変わりません。新幹線代もちょっと高くなるだけです。九州は「地の果て」というイメージがあったんですが、東京に行くのとそれほど変わらなかったんですね。



グリーン車の特大荷物スペース

観光の計画

イベントへの参加は、できるだけ短い期間で行って帰る方針です。1つのイベントにとられる日数を少なくして、その代わりに、たくさんのイベントに参加するというように考えています。海外のイベントでも、移動日とイベント日だけのことが多いのですが、同行者がいる場合は1～2日の観光日をとるといった感じです。

今回は、観光時間をもうけていませんが、とりあえずどこかのタイミングで「とんこつラーメン」を食べるということにしておきました。

イベント1日目

行きの移動

予定通り、7時前の新幹線で、京都から博多に向かいました。やはり指定席はグリーン車も含めて満席で、アナウンスから、自由席もかなり混雑しているであろうことが視えました。



鹿児島本線でみかけた観光列車（3連休、ホテル混雑の一因か？）

博多からは、鹿児島本線ですが、同じJR内なので乗り換えは楽です。おそらく20～30分に1本ぐらいの電車で5駅ほど乗って、九産大前駅まで移動しました。福岡の中心部から少し離れた感じが、駅前にはお店がそこそこあって、都会ではないが田舎でもないといった風でした。



最寄り駅

ブース設置（テーブル、椅子は融通が利く）



会場（12号館）

11時頃つきましたが、まだ本格的な準備が始まっていない感じでした。イベントは13時からです。テーブルは事前に45cm×150と知らされていましたが、ミュージック・トレインは線路の幅が45×120あり、横にノートパソコンを置く必要があり、ギリギリです。ただ、テーブルや椅子の数には余裕があるようで、その場で追加してもらうことができました。テーブル2つだと、LEDのイルミネーションやパーティションを置いたり余裕です。椅子も子供が転ばないように、キャストのついていないものに代えてもらいました。ブースを設置したり、出展料をはらったりで、まだ時間が余ったので駅前にラーメンを食べに行きました。駅前には、とんこつラーメンとあごだしラーメンというのがあり、あごだしラーメンのほうが手前にあったので、この日はとりあえず、そこに入りました。

九州産業大学と会場について（芸術学部もある産業大学）



駅から近い入り口（正門なのか？）

JRの駅名が九産大前となっているだけあって、駅前にある数軒のお店を過ぎると大学の入り口があります。比較的新しい建物が、20棟ほど広めの敷地内に配置されていて、私的には京都産業大学に近いイメージです。

少し変わっているのが、情報系、工学系の学部に加えて、芸術学部が設置されていることで、敷地内に美術館があり、大きな造形作品も置かれていたりします。



大学の美術館



大学内に設置された巨大オブジェ

会場は12号館で、駅からみると、かなり奥のほうの建物で、前に2台のキッチンカーがでていました。横は野球グラウンドです。12号館の1Fはラボになっていて、入り口には、学内で作られた作品のショールーム的な場所と、奥には、3Dプリンタ、レーザーカッター、UVプリンタ、CNCが置かれた工房的な場所があります。



12号館 ショールーム的なスペース



3Dプリンタ



奥のほうにレーザーカッター、UVプリンタなどが置かれている

館内におかれたチラシや冊子を見ると、工学部と芸術学部が共同で何かのプロジェクトをしているというようなことが掲載されていました。私が知っている学校でいうと、なんとなくIAMAS（岐阜県大垣市）なんかでやっているような作品づくり、活動と近いのかなあ、というイメージです。

イベント開始

会場は出入り自由なので開始前から観覧している人（出展者？）もいましたが、13時になってアナウンスがあり、イベントが始まりました。それほど多くない来場者ですが、子連れの家族が多く、滞在時間も長い感じです。開場から時間がたつにつれ来場者も増え、たぶん3時から4時くらいがピークだったんじゃないかと思います。ミュージック・トレインのブースも、1組が10～15分くらい滞留して、またすぐ次の来場者があるという感じで、説明、体験など、「暇だな～」とか「忙しいな～」という感じはなく、ちょうど良いペースだったように思います。多分出展者の家族だと思いますが、何回もブースにやって来る子供もいました。



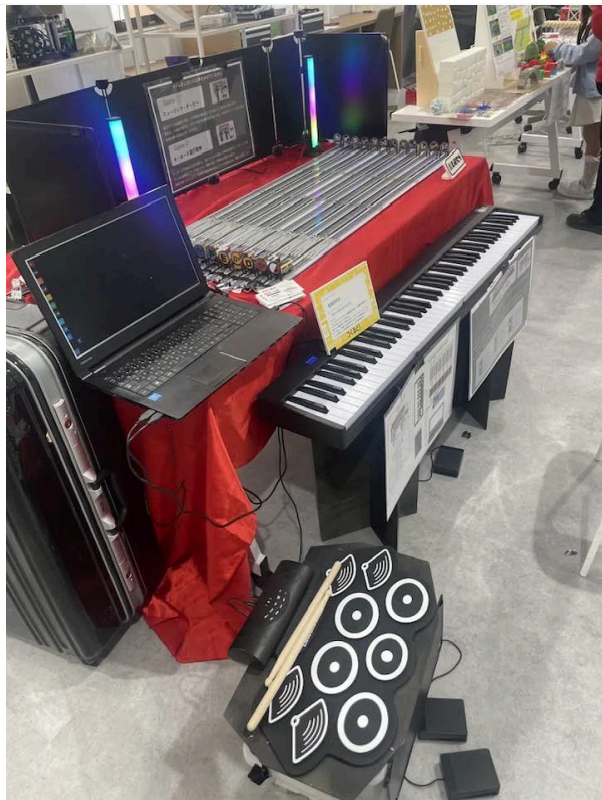
展示会場

通りがかりの人が来場するという場所ではないので、観覧者はこのイベントのために来た人だけです。大きな告知はしておらず、家族連れの来場者は「西日本新聞」を見てきている人たちではないかということでした。

展示作品について

私の作品は「ミュージック・トレイン」というもので、電子ピアノの演奏にあわせてNゲージの鉄道模型が走るというものです。今回は、電子ピアノに加えて、電子ドラムの同時演奏でも動作するようにしています。

電子ピアノは中央で折り畳み可能で、電子ドラムは、ロールピアノと呼ばれるもののドラム版で、巻いて小さく畳むことができます。



折り畳み可能な電子ピアノのとロール形式の電子ドラム

3～4歳の小さい子供は、作品よりも電子ドラムそのものに興味があるらしく、いつまでも叩いている子供がいました。専用台ではなく、プラケースの上に乗せていたので、打面が低い位置だったのも関係しているかもしれません。電子ドラムだけを叩きにくる子供を避けるために、もう少し高い位置に設置すればいいのかなと思うなどしました。あと、ピアノと違い、どの音がどのレールに対応しているか分かりにくいので、打面に対応するレール名を書けばいいかもしれません。

数人の子供を連れた女性がいましたが、子供たちから「先生」と呼ばれていたのが、生徒を引率してきた先生かもしれません。（中国や他のアジアの国のメイカーフェアでも、先生が生徒を引率して見に来ているということがよくあります。）



生徒を引率してきた先生？

他のブースは、「スタックちゃん」など他のイベントで馴染みのあるものもあれば、他ではあまりみない作品もけっこうありました。おそらく地元の人や学生さんの作品ではないかと思います。



隣のブースはマニアックな大学の先生

すぐ横は大学の先生のブースで、LEDで迷路の最短経路を示したり、少し変わった歯車などを展示されていました。特に同じ部屋の展示ブースは、説明を色々聞いてまわる時間と余裕があり、作者さんとも交流できた感じです。奥のスペースでは1日数回のワークショップが行われていて、どうも、ここに参加する家族がワークショップの前後で展示ブースを訪れていたのではないかと思います。

撤収

17時になりイベントの1日目が終了しました。盗難の心配が低いため、とりあえず、ノートパソコンとNゲージの車両だけリュックにつめて、あとはそのままテーブルクロスで隠すだけです。自動演奏ロボットを展示する場合は、すべて自作の1点ものなので、かなりの量を都度、撤収するのですが、ミュージック・トレインは市販のもので構成されているため、無くなったり破損したりしても、また買えばいいやっというのがあります。

懇親会



懇親会

12号館のすぐ横の建物に学生食堂があり、そこが懇親会の会場です。学食と言ってもカフェ的な、とてもお洒落な場所です。立食形式で、食べ物とアルコールを含む飲み物が提供されますが、ケーキリングではなく、奥の厨房で調理したものがすぐに出てくるため、その分、美味しかったように思います。量的にはちょうどいい感じで、終了時に若者が食べ残しがないように少し残っていた食べ物をたらいがて後始末するという感じでした。



懇親会の料理

その場に知り合いがさほどいなくても、基本的に私は懇親会には参加するようにしています。ただ、他に知り合いが集まるような場がある時にはそちらに参加することもあります。今回は、他の参加者の人と少し話をしたり、運営の方に話を聞くなどしたりして、退屈することなく時間になりました。学生さんもいたのですが、こちらとは話す機会がありませんでした。

インターネットカフェで宿泊（個室がとれました）



快活CLUB ブランチ福岡下原店

懇親会の途中、快活クラブのアプリで、最寄りの店舗に「鍵付き個室」の空きがあるかどうか、調べてみました。数席の空きがあることが分かりましたが、結局、その時点で空きがあるだけで、連続して朝までの空きがあるかどうかは分かりません。数時間入室できても、次の予約の人のために、途中で退室しなければならないようであれば、意味がありません。

結局、行ってみるしか分からないので懇親会の終了後、「快活CLUB ブランチ福岡下原店」に向かいました。歩いて行ける距離ですが、もう他の店舗を探す体力が残っていないため、個室があいてなくても、最悪、自由席で朝まで過ごす心づもりです。

お店では端末で部屋を決めるのですが、「鍵付き個室」の空きは数室で、最初の2つは「2時間まで」など、予想通り後の予約が入っていました。3つ目の部屋で制限がでてこなかったため、その部屋をとることができました。思うに、予約用の部屋以外に、当日用の枠があってそれが空いていたのではないかと思います。店舗についたのは、8時ごろでしたが、通常、9時ぐらいから混み始めるようで、もう少し遅い時間だと、部屋が無くなっていたかもしれません。

ただ、「鍵付き個室」以外にも、リクライニングシートが設置されている個室的なものはあるようでした。自由席で朝まで過ごすのは無理と感じましたが、通常の個室でも、あればなんとか耐えられるのではないかと思います。

結局、13時間40分の滞在で3960円でした。（4000円でないのは、20円商法的なものかと思いましたが、どうも、分単位で料金を計算しているのではないかと思います。）

「ランチ福岡下原」というのは、ショッピングモールの名称のようで、大きなスーパーの他、飲食店が入っています。リサイクルショップと100均もありました。いつも展示会場の近くのDaisoは事前にチェックしておくのですが、こちらのキャンドゥは会場からさほど遠くなく、会場から一番近い100均かもしれません。

イベント2日目

ブース設置とイベント開始

10時半ごろ快活クラブを出て、すぐに12号館につきました。準備している人もまだあまりいません。テーブルクロスを元に戻して、Nゲージの車両を並べるだけなので、設置の作業はすぐに終わりました。

11時にイベントが始まりましたが、2日目は15時までです。昨日に続き、晴天で、来場者のペースもあまり大きく変わりません。

11時20分ごろ、「12時に戻ります」と書いて、昼食を食べにでました。この日は豚骨ラーメンにしましたが、チェーン店っぽい店で、関西で食べる豚骨ラーメンとあまり変わりませんでした。

(そりゃそうか。)

記念撮影と撤収



記念撮影

5分ほど前から作品で使用している電子ピアノで「蛍の光」を演奏していましたが、15時にアナウンスがあり、イベントが終了しました。(NT●●では楽器などを展示している参加者が終了前に「蛍の光」を演奏していることがよくあります。) 記念撮影のあと、ささっと展示物をスーツケースに詰め込み、帰路につきました。

帰りの移動

帰りの新幹線は余裕をみて取ってあるため、1時間半ほど早く着いてしまいました。窓口で1時間ほど早い便に代えてもらいましたが、どうも、この日は全体的に混んでいないようでした。実際、最後尾の2列席でしたが、博多から京都まで、横に誰も座りませんでした。乗車率は区間により40%から60%といった具合でしょうか。横に座った人からインフルエンザに感染したらどうしようという心配もなく、無事京都までたどりつきました。

まとめ



手前は学生さんの展示、奥の部屋は家族連れ向けワークショップ

感想



電子ドラムは子供に人気

来場者は家族連れが多いのですが、同日開催されたNT加賀のようなショッピングモールで行われるイベントのように、ぶらっと通りかかってたまたま来場したという人は皆無です。会場にいるのは、展示を見に来た家族か、参加者とその家族で、すこし変わった展示、マニアックなものでも好意的に見てくれます。

メイカーフェアのように、ある程度の完成度が保証された作品を効率よく出来るだけ多くの人に見てもらうという感じではなく、他の展示者とも交流しながら、家族連れにゆったりと作品をみてもらうということに主眼を置いたイベントです。商業的な匂いがあまりなく、好きに作ったものを地元の人に見てもらうという感じで、学生さんの展示も多いです。

